
第15回 世界韓国研究コンソーシアム・カンファレンス

The 15th Worldwide Consortium of Korean Studies Centers Conference

“Circulation of Knowledge in Global Korean Studies”

日時：2019年8月18～21日

開催校：ベルリン自由大学

参加大学（コンソーシアム加盟校）

ベルリン自由大学、ハーバード大学、ロンドン大学、オーストラリア国立大学、ブリティッシュコロンビア大学、ライデン大学、ソウル大学校、高麗大学校、九州大学（計9大学）

九州大学からの参加者

- ・ 深川博史（韓国研究センター長）：ディレクター会議、討論者
- ・ 鄭 修娟（人間環境学府 博士課程）：研究発表
- ・ 田中美佳（人文科学府 博士課程）：研究発表



ベルリン自由大学韓国研究センターでの集合写真。コンソーシアム加盟校の各ディレクターが、中央左上から右斜め下へ2列に並んでいる。

第15回世界韓国研究コンソーシアム・カンファレンス参加記（於、ベルリン）

韓国研究センター長 深川博史

8月18～21日の4日間、ベルリン自由大学で、第15回世界韓国研究コンソーシアム・カンファレンスが開催された。ベルリン自由大学、ハーバード大学、ロンドン大学 SOAS、オーストラリア国立大学 ANU、ブリティッシュコロンビア大学 UBC、ライデン大学、ソウル大学、高麗大学、九州大学の、9校の韓国研究センター長（以下、ディレクター）が参加した。チリ・中国の大学や UCLA のディレクターは不参加であった。

【ワークショップ】

期間中には、参加校の博士課程の大学院生による17件の報告が行われ、各ディレクターがコメントをおこなった。九大からは、韓国研究センター長の他に2名の博士院生が参加した。センター長の深川はワークショップの討論を担当し、人間環境学府と人文科学府の博士院生が報告を行った。プログラムは、添付資料を参照されたい。

期間の後半に Publication Workshop が開催され、“Sungkyun Journal of East Asian Studies” の編集長を務める UBC の Ross King 教授が、国際学術誌への投稿について、1時間ほどの講演を行った。大学院生たちは、熱心に耳を傾けていた。



【ディレクター会議】

期間中にマラガ大を除く加盟9校のディレクター会議が2回開催された。初日の議題は、今後のコンソーシアムの継続如何、加盟校追加の如何、来年の開催校と時期であった。2日目夕方のディレクター会議では、優秀報告賞を選考した。

まず、コンソーシアムの継続如何については、初回の九大開催の経緯から議論が始まり、世界の韓国研究センターの交流と大学院生の成果発表の場として有益であることが確認された。開催校の負担が大きいことを各人が認めながらも、年に1回集まることの意義が議論され、継続することとなった。

加盟校追加については慎重論があり、研究者育成に力を入れる大学を加えることが確認された。今回、スペインの大学教授がオブザーバー参加しており、加盟について検討されたが、当該大学に博士課程がないことから不承認となった。新規加盟の候補については、ライデン大学のディレクターより、フランス国立社会科学高等研究院の韓国研究センターの加盟を推奨する旨の発言があった。

また、次年の開催校については、この2年間に、ライデン、ベルリンと、欧州が続いたため、東アジアで開催することとなった。東アジア地域での開催については、ソウル大のディレクターのパク・テギョン教授より、九大開催を事前打診されていたが、態勢が整わないなどの理由から辞退していた。ディレクター会議

での議論の結果、2020年はソウル大で6月中旬に開催することになった。

優秀報告賞は、選考の議論を経て、9名のディレクターの挙手で優秀者を選び、2名を表彰することとなった。九大からの参加・発表院生は惜しくも次点であったが、UBCのRoss King教授が、九大の院生の報告を高く評価していた。

【参加の感想】

3日間のコンソーシアムに参加して、各国のディレクターや大学院生と交流を深め、各大学の韓国研究者と交流できたことは、有意義であった。九大から参加した2名の院生は、国際舞台とあって、発表前は緊張していたが、発表後には、各国の先生方から質問が多く出て、和やかな雰囲気の中での議論となり、他国の院生とも交流し、良い経験になったようである。

ちなみに、私は開催期間中に、ベルリン自由大学やスペインの教授と親しくなり、食事や休憩時間等に、欧州の韓国研究事情について話を聞いた。世界では今、韓国研究の中心は、米国から欧州に移っており、Korea Foundationは欧州の拠点をベルリンに置いて、担当者が欧州すべてに対応しているとのことであった。KFの担当者も行事に参加していた。

開催校であるベルリン自由大学のディレクターは精力的に活動を行っていた。最近10本のファンドに申請して、そのうち2本を獲得したとのことであった。また、ベルリン自由大学の中では、条件の良い建物を、韓国研究センターとして確保し、10人ほどの研究員がいるとのことであった。

本研究センターにおいても、学术交流や研究活動を一層盛り立てたいとの思いを強くした次第である。

開催中お世話になった、ベルリン自由大学 Korean Politics and Political Institutions、ディレクターの Prof. Dr. Eun-Jeung Lee、及び Prof. Dr. Hannes B. Mosler に、御礼申し上げたい。